第五段

1．日本の急激な「近代化」
・「する」価値の猛烈な勢いでの浸透。
←→
・「である」価値が強靭に根を張る。
←
・「する」原理を建て前とする組織←――――「である」社会のモラル
←混乱　　セメント化
・伝統的な「身分」が急激に崩壊。
・自発的な集団形成と自主的なコミュニケーションの発達の妨害。
・会議と討論の社会的基礎の未成熟。
←
・閉鎖的な「村」を形成。
・「うち」のメンバー意識と「うちらしく」の道徳。
←→
・あかの他人との接触が待ち構えている。

・同じ人間が場所柄に応じていろいろに振る舞い方を使い分けなければならない。
内は、「である」社会
外は、「する」社会

2．「する」価値と「である」価値の倒錯
・戦前
・「臣民の道」という行動様式への帰一によって取り繕われていた。
・戦後
・「国体」という支柱が取り払われた。
・「大衆社会」の諸相が急激に蔓延した。
←
・「する」価値に基づく検証が必要なところでは欠けている＝非近代的
・「する」価値の必要のない部分では過剰に進展している　＝過近代的
①「見せる」床の間付きの居間↓「使う」台所や居間＝適正な近代化。
②日本式宿屋↓ホテル＝適正な近代化。
③休日や閑暇↓レジャー＝過近代化。
④教養としての学芸↓大衆的な効果と卑近な実用性＝過近代化。

・政治と学問について考える。
・政治は非近代的な世界なので、「する」価値が必要である。
・学問は過近代化しているので、「である」価値が必要である。